

# 知られざる真実

真実を知ること、新しい歩を踏み出す事が出来る。私は怒りと涙で、何度も読み進めなりました。

歴史に残る渾身の名著です。

「知られざる真実―拘留地にて」植草一秀 著

小泉内閣時代の罪として、著書では次のように掲げています。(P46)

■経済政策。深刻な不況と不良債権問題、巨大な財政赤字三重苦だったと著者はいい

支持しました。そして対日直接投資倍増計画を政策公約とし、政府系金融機関の資金援助して外国資本による日本の実物資産底値買い取りを積極的に支援した。生命保険、損害保険、銀行等が外国資本の手に渡った。郵政民営化は米国の熱望です。こういうことを、著者は、小泉政権が日本国民の利益でなく、米国防府や米国防産業の利益を優先したと著述しています。

■弱者に対する施策。小泉内閣は官僚利権を死守し、弱者の切り捨て政策を行った。本来は、弱者に対する必要十分な保護が必要と著者はいいます。

■外交姿勢。小泉内閣は米国のイラク攻撃を閣議決定して

さて、その著者が失脚したのは、りそな銀行の問題である。小泉内閣が誕生してから2年後、竹中経済相兼金融相が日経平均株価指数量連動型株式投資信託(ETF)について「絶対儲かる」という発言をし、その3ヶ月後に、りそな銀行の救済処理が発表されている。(P85)

りそな銀行を救済し、足利銀行を破綻させる。

## 東京都議地選 自民惨敗

小泉総理大臣所信表明演説  
平成13年5月7日

い、聖域なき「構造改革」の戦略なのであります。

IT革命、特殊法人「改革」、セフティーネットの破壊は弱者から出来るだけほぎ取る「弱肉強食」ゲームです。

アメリカのために財界、財務省はロックフェラー・ロスチャイルド「奥の院」の洗練された帝国主義が一体になり、明日も従い続けます。

「私に課せられた最重要課題は、経済を立て直し、自信と誇りに満ちた日本社会を築くことです。同時に、地球社会の一員として、日本が建設的な責任を果たしていくことです。私は「構造改革なくして日本の再生と発展はない」という信念の下で、経済、財政、行政、社会政治の分野における構造改革を進めることにより、「新世紀維新」とも言うべき改革を断行したいと思えます。痛みを恐れず、既得権益の壁にひるまず、過去の経験にとらわれず、「恐れず、ひるまず、とらわれず」の姿勢を貫き、21世紀にふさわしい経済・社会システムを確立していきたいと考えております。」

総理は官僚が作成した所信表明演説の案分を読み、即座に「裁可」した。日本凋落開始の決定的瞬間であった。米国にとっては、永年の対日工作が帰結した瞬間でもあった。時間をかけ十分養殖し太らせ、一気に奪い尽くすのが欧米の「植民地」政策、有色人種に対する歴史でもある。

大臣を支配する霞ヶ関官僚は、国家国民が最優先でない。省益即ち己の私利欲優先が支配しています。救世主は誰か。それは自国民。国民の人的品質、パワーが勝負です。投票に行こう

(有)西川経営オフィスサービス  
中村会計  
事務所便り  
2009年7月13日(月) N043  
地域から明るい未来を作ろう

## 従属国

私達が生きる戦後の日本社会のすべてが、美国(米)の対日国家戦略の影響下に置かれ操作されています。日本システム(構造)が美国を完全に凌駕し、戦勝国のプライドを深く傷つけました。美国の最大の脅威になり、危機感で対日国家戦略を真剣に見直したのです。

が、政治権力とメディアを支配すれば、均一国民の操作は実に簡単です。「改革なくして成長なし」これが美国の一見最もらしい

財務省の官僚主導、美国